# 第8章 動詞

事物の動作、作用、状態、存在などを表す語を、動詞という。第4章で見たように、 動詞は文の中心となる。

# ● 動詞の種類

動詞は、二つ(自動詞と他動詞)ないし、下記のように四つに大別できる。常に決まった文型でしか使えない動詞もあるが(例えば、完全自動詞 arrive)、多くの動詞は二つの以上の文型で使える。ここでは、全文型に使用可能な get の例を示す。

### [A] 完全自動詞

目的語をとらず、補語も必要としない動詞。前述の第一文型(S+V)を構成する。

- O I'm fixing a hole where the rain **gets** in.
  - (僕は雨が入り込んでくる穴をふさいでいる) [099]
- O I didn't **get** to bed last night.
  - (昨夜は寝なかった) [125]
- O Let's all get up and dance to a song.
  - (みんな立ち上がって、歌に合わせて踊ろう)〔116〕

# [B] 不完全自動詞

目的語はとらないが、補語(主格補語)を必要とする動詞。連結動詞と呼ぶ学者もいる。第二文型(S+V+C)を構成する。

- $\bigcirc$  I **get** *shy* when they start to stare.
  - (人にじっとみられると、僕は引っ込みがちになる) [033]
- $\bigcirc$  It's **getting** *better* all the time.
  - (どんどん良くなっている) [098]
- $\bigcirc$  You can **get** *married* in Gibraltar near Spain.
- (スペインの近くのジブラルタルで結婚できるよ)〔168〕

- ④ Who knows how long I've loved you?(僕がどんなに長いこと君を慕ってきたか(君以外は)誰も知らない) 〔140〕
- ⑤ I'll let you know when she's come home. (彼女が帰ってきたら、君に知らせるよ) [016]
- ⑤ That boy won't be happy till he**'s seen** you cry.

  (あいつは君が泣くのを見るまで満足しないだろう)〔022〕

完了、結果、経験を区別するには、慎重に意味を検討する必要がある場合も少なくない。しかし、副詞 just(したばかり)が使われていれば完了、before(以前に)が使われていれば経験であることが、すぐに判断できる。また、経験用法の文には頻度を表す副詞(never、often、many times など)が使われることがよくある。継続用法で使われる動詞は、動作ではなくて状態を表すもの(be、know、love など)である。なお、米国で用いられる現在完了のほとんどは、経験用法のようである。

ビートルズの歌詞に用例がある文法事項については、なるべく他の例文を持ち出したくないのだが、結果を表す好例が Argent の〔Telescope〕にあるので、紹介する。その文は Mr. Galileo, thank you for what you've done. (© 2007 Verulam Music)。ガリレオが17世紀に行った発明のことに言及しているのだが、なぜ過去時制ではないのか? それは現在でも残っている結果(望遠鏡が重宝しているという事実)に視点を置いているからである。

現在完了と同じ形をした口語慣用表現として、<have got +名詞>と <have got + to 不定詞> がある。前者は「所有する」という意味。後者は義務や必要を表す。

- O I've got everything that you want.
  - (君が欲しいものは何でも持ってるよ)〔009〕
- O You've got time to rectify all the things that you should.
  - (君には直すべきことを全部直す時間がある)〔067〕
- O All I've got to do is call you on the phone.
  - (僕から君に電話するだけでいい)〔014〕
- O Everything has got to be just like you want it to.
  - (すべてが自分の望むとおりでなければならない)〔160〕

- ① What **would** you think if I **sang** out of tune? (もし僕の歌が調子はずれたとしたら、君たちはどう思う?) [096]
- ① I **would** be sad if our new love **was** in vain. (もし僕たちの新しい恋が無駄になったとしたら、僕は悲しい) 〔028〕
- ② If he **were** not wealthy, he **could** not **have** donated that sum of money. (裕福でなければ、あれほどの金額を寄付することはできなかっただろう)
- ② If looks **could** kill, it **would have** been us instead of him.
  (見かけだけで殺せるとしたら、殺されたのは私たちのほうだったわ)〔130〕

帰結節が複文の場合は、非現実な内容の節だけに仮定法を用いる。例えば下記の文例では、話者の愛情、サンゴの生息、話者の想像行為は現実のことなので、その部分は直説法になっている。

- If I **were** you, I'**d** realize that I *love* you more than any other guy.

  (僕が君なら、誰よりも僕のほうが君を愛していることに気づくだろうに)〔039〕
- We **would** shout and swim about the coral that *lies* beneath the waves.

  (海中にいるサンゴの周りで大声を出したり泳いだりするのだけれど) [174]
- If I **had** some more time to spend, then I *guess* I'**d** be with you. (もっと時間があれば、君と一緒に過ごすだろうに) [075]
- 〇 If she **could** only hear me, this is what I'd say. (僕の声が彼女に届くなら、こう言うんだけれど) [150]

しかし、主節と従属節の両方に仮定法を使う場合がないわけでない。一例として、マッカートニーのソロ作品 [Heaven On A Sunday] に And if I only had one love, yours **would** be the one I'**d** choose. (© 1997 MPL Communications) という文がある。この女は現実に存在するものの、彼女の愛は想像上のことであることが would be から読み取れる。それゆえ、この文は「一つしか愛を享受できないとしたら、君の愛を選ぶから、僕を愛して欲しい」という意味と解釈することになる。

- ⑤ When you talk about destruction, don't you know that you **can** count me out? (破壊的な活動だったら、僕を仲間に入れないでくれよな)〔124, 149〕
- 6 You can drive my car.

(私の運転手をしたら?) [063]

- ⑥ Every summer we **can** rent a cottage in the Isle of Wight. (毎年夏にはワイト島でコテージを借りよう) [103]
- ⑥ **Can** I take you out to the pictures? (僕と一緒に映画に行かない?) [172]
- ⑦ **Can** you take me back where I came from? (来た所へ連れ戻してくれる?) [Can You Take Me Back?]
- ⑦ **Can**'t you try to see that I'm trying to get to you? (君に僕の気持を知ってもらおうとしてること、分かってくれないの?) 〔058〕
- ③ I can't spend my whole life trying just to make you toe the line.(おまえを矯正しながら暮らさなきゃならないなんて、まっぴらだ)〔076〕

#### [G] could の用法

次のような意味を表す: ① 過去における能力。② 過去における可能。この二つの用法では、時制の一致や主語が無生物の場合を除くと、was/were able to を使うことが多い。③ 可能性。④ 許可。⑤ 提案や申し出。⑥ 依頼。⑦ 願望。⑧ 話者の意外な気持。⑨ 仮定法過去の帰結節において、「…できるのだが」という意味。⑩ 仮定法過去完了の帰結節において、「…できたのだが」という意味。⑪ 仮定法過去 の条件節において、「…できるならば」という意味。⑫ 条件節を省略した仮定法の文において、「…できるのだが、…できたのだが」という意味。

- ① I never realized what a kiss **could** be. (くちづけにどんな力があるか気づかなかった) [027]
- ① We gave her everything money **could** buy. (金で買える物は何もかも与えた) [100]
- ② When I saw him with you, I **could** feel my future fold. (彼が君と一緒にいるのを見て、僕の前途が崩れるのを感じた) 〔070〕
- ②② She **could** steal but she **could** not rob. (窃盗はできても強盗はできなかった)〔182〕

### [F] 物質名詞

物質を表す名詞で、次の特徴を持つ: ① 一定の形を持っていないので、数えることができない。つまり、複数形がない。② 従って、原則として不定冠詞(a/an)を付けない。③ 不定の量を示す形容詞または数量句(much、little、a little、some、no、a lot of、a bit of など)を付けることができる。

ビートルズ作品には下記の物質名詞が登場する。

自然現象: mist (もや)、fog (霧)、rain (雨)、snow (雪)、ice (氷) など。

気体: air (空気)、gas (ガス)、heat (熱)、fire (火)、light (光) など。

液体: water (水)、tea (茶)、wine (ぶどう酒)、gin (ジン) など。

原料: wood(材木)、paper(紙)、silver(銀)、glass(ガラス)など。

食料: rice(米)、cake(ケーキ)、bacon(ベーコン)、fish(魚肉)など。

その他: dirt (泥)、sand (砂)、soap (石鹸)、money (金) など。

具体的な量を示すには、形状、容器、単位などを表す語と数詞を併用する。例えば、a flake of snow(一片の雪)、two cubes of ice(角氷二個)、three gallons of gas (ガソリン3ガロン)、a ray of light(一条の光)、a glass of water(コップー杯の水)、a cup of tea(茶碗一杯の茶)、a bottle of wine(ぶどう酒一瓶)、a piece of wood(木片一つ)、a sheet of paper(紙一枚)、an ounce of silver(銀1オンス)、a 10-pound bag of rice(10ポンド袋入りの米)、a slice of bacon(ベーコン一切れ)、a handful of sand(砂一つかみ)、a cake of soap(石鹸一個)。

物質名詞が普通名詞化すると、元とは異なる意味を持つ。上記の名詞の場合を例に取ると、a fire (火事)、a light (明かり)、waters (湖などが蓄える多量の水)、a wood (森)、a paper (新聞)、a glass (コップ)、glasses (眼鏡)。最後の三つは、それぞれの原料を使った製品である。

飲食店などで注文品を述べる際には、two coffees and one cola (コーヒーふたつとコーラひとつ) というような言い方もある。

# 8 itの特別用法

既述の中性単数名詞または不可算名詞などを指す用法に加えて、itには次のような特別用法がある: ① 既述の句、節、または文を受ける。② すぐ後に出てくる事物を指す。③ 聞き手が察知できる人や事物を指す。④ 非人称動詞や be動詞などの主語として、@ 天候、⑤ 明暗、⑥ 日時、⑥ 時間、⑥ 距離を指す。⑤ 心情や体調を指す。⑥ 漠然と状況を指す。⑦ 漠然とした目的語。⑧ 形式主語。⑨ 形式目的語。⑩ it appears/seems that の構文における主語。⑪ 強調構文を構成。

- 1 If I cry, it's not because I'm sad.
  - (たとえ泣くとしても、それは悲しいからじゃない)〔004〕
- 1 I need you, and it's true.
  - (君が必要なんだ。本当だよ) [012]
- ② You might not feel **it** now, but when the pain cuts through, you're going to know and how. (今は感じないかもしれないけど、痛みが走ったら) 〔151〕
- ② It took a long time. Now I'm so happy I found you.
  - (時間がかかったけど、あなたを見つけることができてとても嬉しい) 〔148〕
- ③ Don't ask me what I want **it** for if you don't want to pay some more. (これ以上 払いたくないとしても、俺様が何のために金を集めているかなんて聞くな) [079]
- ③ He said, "Rocky, you met your match." Rocky said, "Doc, **it**'s only a scratch." (「ほんのかすり傷だよ、先生」とロッキーは答えた)〔137〕
- ④ ⓐ When it starts to rain, everything's the same.
  - (雨が降り出そうが、すべて同じである)〔078〕
- ④ ⑤ When **it** gets dark, I tow your heart away. (暗くなったら、君のハートをもらっちゃう)〔104〕
- 4 © They say it's your birthday.
  - (今日は君の誕生日だってね) [142]
- ④ ① How long will **it** take till she sees the mistake she has made? (彼女が過ちに気づくのにどのくらい時間がかかるんだろう?) [041]
- ④ ② It's thirty-five kilometers from here to the airport.
  - (ここから空港までは35キロです)

# 4 無冠詞

次のような際には冠詞を付けない: ① 不定冠詞に相当する不定代名形容詞または不定数量形容詞がある場合。② 定冠詞に相当する所有形容詞(もしくは名詞の所有格)、指示形容詞、疑問形容詞、関係形容詞がある場合。③ 普通名詞の複数形、集合名詞、物質名詞、抽象名詞が一般的な意味で用いられる場合。④ 普通名詞であっても抽象的な意味で用いられる場合。⑤ 交通や通信の手段。⑥ 限定語句がない食事。⑦ 学科やスポーツ。⑧ 限定語句がない季節、月、曜日。⑨ その他の多くの固有名詞。⑪ kind of、sort of、type of に続く場合。ただし、口語では the kind of a girl や the kind of things なども聞かれる。⑪ 二つの名詞が対句を構成している場合。⑫ 二つ以上の名詞が同一のものを表す場合や、二つのものが一組になっている場合は、最初の名詞にのみ冠詞を付ける。⑬ 地位などを表す名詞を補語として用いる場合や、人名と同格に用いる場合。⑭ 呼びかけ。⑮ その他、慣用句の中など。

- ① In Penny Lane, the barber shaves *another* **customer**.
  - (ペニー通りでは、さっきの床屋が別の客の顔を剃っている) [093]
- ① You tell me that you've heard *every* **sound** there is. (君は世の中のあらゆるサウンドを聞いたことがあると言う) [087]
- ① I've got *no* car, and it's breaking my heart. (私は車を持ってないの。悲しいことなんだけど)〔063〕
- ①③ Everywhere there's *lots of* **piggies** living piggy **lives**. (ブタの暮らしをしているブタがどこにもたくさんいる) 〔136〕
- ② Lift up *your* **hearts**, and sing me a song. (気分を高めて、僕のために歌を歌って欲しい)〔116〕
- ② I'd like to be under the sea, in *an octopus's* **garden** in the shade. (海の中、目立たない所にあるタコの園で暮らしたいな) 〔174〕
- ② Before *this* **dance** is through, I think I'll love you, too.

  (このダンスパーティーが終わる前に、僕も君が好きになると思う)〔029〕
- ② It doesn't really matter *what* **chords** I play or *what* **words** I say.

  (どんなコードを演奏するか、どんな歌詞を付けているかは、重要じゃない)〔119〕
- ② The song is about a guy *whose* **girlfriend** has run away from him. (その歌は恋人に逃げられた男の話である)

#### (4) on, upon, over, above

どれも日本語では「…の上に」であるが、意味が異なる。onとuponは同義で、接触や付着を意味する。下記のトカゲの例で分かるように、接触面は水平物の上部に限らない。overは、接触にしろ非接触にしる、真上を覆っている状態を表す。aboveは表面から離れた上方を意味する。

- On the way, the paper bag was **on** my knee.

  (紙袋をずっと膝の上に置いたままだった) [125]
- O She's well-acquainted with the touch of the velvet hand like a lizard **on** a windowpane. (窓ガラスを這うトカゲのように滑らかな手の感触)〔132〕
- O There's a fog **upon** LA.

(ロサンゼルスに霧がかかっている)〔115〕

- Cellophane flowers of yellow and green towering **over** your head. (セロハン紙でできたような黄色や緑色の花が、頭の上にそびえ立つ)〔097〕
- O I traveled **over** Austria.

(オーストリア中を旅行した)

O I'm miles above you.

(僕は君の何マイルも上) 〔147〕

# (5) under, below, beneath

どれも「…の下に」という日本語に訳せるが、同義ではない。underは overの反意語。つまり、接触にしろ非接触にしろ、真下を意味する。belowは above の逆で、下方を表す。beneathは underと belowの両方の意味を備えるが、日常はあまり使われない言葉である。

- I'd like to be **under** the sea, in an octopus's garden in the shade. (海の中、目立たない所にあるタコの園で暮らしたいな)〔174〕
- 〇 The minute you let her **under** your skin, then you'll begin to make it better. (彼女に夢中になれば、すぐにうまく行き始める)〔123〕
- We would be warm **below** the storm in our little hideaway **beneath** the waves. (海の上は嵐でも、海の中の隠れ家の中は安楽だ) 〔174〕

- ③ The same goes for me **whenever** you want me at all. (同じことが僕にも当てはまる。いつ君が僕に会いたくなっても)〔014〕
- ③ I'll be here, yes, I will, **whenever** you call. (電話をくれたら、いつでもここで待ってるよ)〔014〕
- ④ We'll have some fun **when** you're mine.

  (君が僕のガールフレンドになったら、ふたりで楽しくやれるよ)〔017〕
- ④ **When** you talk about destruction, don't you know that you can count me out? (破壊的な活動だったら、僕を仲間に入れないでくれよな) [124, 149]
- ⑤ Every night, **when** everybody has fun, here am I sitting all on my own. (毎晩、みんなが楽しくやってるのに、僕は独りぼっちでいる) [013]
- ⑤ How can you laugh **when** you know I'm down? (僕が落ち込んでるのに、どうして君は笑えるの?) [050]
- ⑥ She's the kind of girl who puts you down **when** friends are there. (友達が一緒にいても、平気で人をやりこめるような女) [071]
- All her words of kindness linger on when she no longer needs you. (彼女はもう君を必要としていないのに、彼女の言葉が頭から消えない) 〔088〕
- ⑦ It won't be the same now **when** I'm with you. (君と一緒にいるから、今までとは同じじゃないぞ) [169]
- ① It's just not right **when** every night, I'm all alone. (僕が毎晩ひとりぼっちだなんて、本当に理不尽だ)〔016〕

# (2) while, as

when は時の一点に焦点を当てるのに対して、while は継続する期間を示す。主節の主語と同じ場合は、従属節の主語と be 動詞を省くことが少なくない。他方、as は同時性や並行性を示す。それぞれ、次のような意味を表す: ① …している間に。② …する時。③ …しながら。

- ① If she turns up **while** I'm gone, please let me know. (僕がいない間に彼女が現れたら、教えて)[045]
- ① Love me **while** you can. (できるうちに愛しておくれ) [082]
- ① **While** away, I'll write home every day. <原文は while I'm away> (留守をしてる間、毎日手紙を書くよ) [015]

- ③ What did we do that was wrong?
  - (どんな間違ったことをしたのだろう?)〔100〕
- ④ *All* the people **that** come and go stop and say hello.
- (行き来する人々は皆、立ち止まって挨拶する)〔093〕
- ④ Fun is *the one* thing **that** money can't buy.
  - (愉快な気分だけは金で買えない) 〔100〕
- ⑤ It's the second time (that) I've caught you talking to him.

  (おまえがあいつと話しているところを見つけたのは二度目だ)〔024〕
- ⑤ It's the only place **that** he's ever been. (彼が行ったことのある唯一の所だ) 〔180〕
- (5) You can penetrate any place (that) you go.
  - (どこへ行っても浸透できる) [160]
- ⑤ Thank you, girl, for loving me the way **that** you do. (僕をそういうふうに愛してくれてありがとう) [010]
- © It's you (that) she's thinking of.
  - (彼女が思っているのは君のことだよ) [011]
- ⑥ It's not my mind **that** is confusing things. <この文脈には別解釈も可能> (事が混乱するのは、僕が意図的にやっているのではない) 〔090〕

ビートルズ作品の中に、関係代名詞の二重限定の例が六つあるので、二つを示しておく。しかし、これらは二重否定も含むので、学習者には難解であろう。そこで、解りやすい肯定の例を加えておく。このように、同一の先行詞を二重に修飾する場合は、目的格関係代名詞を省略することが多い。

- O There's nothing (that) you can do **that** can't be done. (やってできないものはない  $\Rightarrow$  何でもできる) [108]
- 〇 There's no one (that) you can save **that** can't be saved. (救おうとして救えない人はいない  $\Rightarrow$  誰でも救える) (108) 。
- 〇 "Something" was the only song (that) Harrison wrote **that** was released on side A of a single. (Something はシングルのA面になった曲の中で唯一ハリソンが書いた曲だった)